

私は今年で、大学の2回生になりました。現在、環境デザインという学科で建築計画、建築構造、建築設計について学んでいます。

1週間で新しい設計を出さないといけなくて締め切りに追われる毎日ですが、やりがいもその分大きいので、楽しく大学生活を送っています。

「学志舎での思い出」

自律型の授業のおかげで自分のわからないことは理解できるまでとことん考えることができたし、テストまでのスケジュールを立てることで自己管理をする力がついたらと強く感じています。人見知りでほかの学習塾ではなかなか先生に聞きに行くことができず、わからないことをそのままにしていた私ですが、学志舎ではコーチが大学生の方なので質問しやすく親身になって答えてくださいました。特に私を担当してくださった家永コーチ、橋本コーチは兄のような存在で、勉強以外にもいろいろな相談にのってもらいました。また、塾長と事務長は様々な行事や日常的な会話を通して、普段では経験できないような体験や知識を教えてくださいました。受験期には、同学年の生徒だけでなく、コーチ、塾長、事務長、全員がチームで受験に臨む感覚があって、とても心の支えとなり励みになりました。

学志舎で6年間学んだ

「智をつけよ そして人の為に活かせ」を心に、卒業後は私の周りの人の笑顔の為に、大学での学びを社会人として活かしたいと思っています。

「卒塾生 学志舎で語る」vol.12

「卒塾生 学志舎で語る」
バックナンバーはこちら

卒塾生 立山 稜真

京都府立大学 生命環境学部 環境デザイン学科

私が学志舎に入ったのは、中学2年生からでした。そこから、浪人生であった時期を含めると約6年間お世話になりました。学志舎に入る前まではいわゆる集団授業型の学習塾に通っていたこともあったのですが、私には学志舎での勉強方法のほうが合っていました。ほかの学習塾との違いとして、自律型の授業、コーチ、塾長、事務長との距離の近さがあると思います。

力を何%出せたのか？ 自分で採点する。

点数よりも、大切なものだと教えています。

学志舎では教師のことを「先生」ではなく「コーチ」と呼びます。

「コーチ (coach)」とは「馬車」の意。

ひいては「大切な人を、その目的地まで送り届ける」という意となります。

私が彼の担当コーチとなった時には、すでに彼には勉強の習慣がっていました。むしろ真面目過ぎるくらいなので、彼のマンツーマンの際には、私が雑談を挟んでいくくらいです。もちろん疑問点があれば一緒に考え、指導することもありましたが、基本的には彼が決めた目標に向かって努力する姿を、すぐ近くで見守ることが私の仕事でした。彼が希望する進路に進めたのは、その自主性によるところが大きいのではないかと思います。目的のためには何をすればよいのか、自分で答えを見つけることができる力がありません。今後も彼のその強みを活かした、ますますの活躍を期待しております。

担当コーチ 橋本 亘司 医師



学志舎

智をつけよ そして人の為に活かせ



築100年の古民家



1F 小中学生教室



2F 高校教室

〒500-8085 岐阜市白木町92番地
【お問い合わせ】平日10:00～21:00

☎ 058-265-4562



<https://gakushisha.com/>

学志舎

検索